

平成 29 年 5 月 7 日実施

「東京都 I 類 B」

心理区分

【模範答案】

1 ヒトの脳に関する次の問い(1), (2)に答えよ。

(1) 正中矢状断した脳の断面図を描いた上で、脳の 4 つの主な部分の名称を書き入れ、それぞれの部分における主な機能を説明せよ。

解答例:

(図は略。4 つの部分として大脳皮質、辺縁系、脳幹、小脳を挙げる)

- ①大脳皮質: 系統発生的に古い部分は古皮質または旧皮質と呼ばれ、新しい部分は新皮質と呼ばれる。新皮質は高等な動物ほど増加し、ヒトがもっとも発達している。知覚、運動、思考、記憶、推論などの高次脳機能を司る。また大脳皮質には機能局在という特徴があり、大脳皮質を機能の違いから分類し番号を振ったブロードマンの脳地図が有名である。
- ②辺縁系: 系統発生的に比較的古い皮質、皮質下の構造から成り立ち、間脳を取り囲むように一つの系をなしている。代表的な部位として扁桃核、海馬が含まれる。扁桃核は恐怖や攻撃性等の感情に関わり、海馬は記憶に関連する。
- ③脳幹: 間脳、中脳、橋、延髄をまとめて脳幹と呼ぶ。視床と視床下部からなる間脳は、狭義では脳幹から除外する。脳の中で系統発生的に最も古く、覚醒-睡眠、呼吸などの生命維持の機能を持ち、体内のホメオスタシスを司る。
- ④小脳: 脳幹の背側に位置する。系統発生的には比較的新しい。運動技能の記憶に関連する。

(2) 左脳の表面の側面図を描いた上で、4 つの葉の名称を書き入れ、それぞれの葉における主な機能を説明せよ。

解答例:

(図は略。4 つの葉として、前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉を挙げる。)

- ①前頭葉: 運動野、運動連合野、前頭連合野、ブローカ野等が含まれる。感覚や記憶等の情報を受け取り、意思決定を行ったり、行動を組み立て実行するといった機能を担う。また前頭葉の特定の部位の損傷により、意欲が減退したり感情の統制が困難になることが知られている。
- ②頭頂葉: 体性感覚野や頭頂連合野が含まれる。身体全体の体性感覚の情報を受け取り、感覚情報を統合する機能を担う。空間的な視覚情報の処理にも関連する。
- ③側頭葉: 側頭連合野や聴覚野、ウェルニッケ野等が含まれる。聴覚情報の処理、形態など視覚情報の処理、記憶の貯蔵を担う。
- ④後頭葉: 視覚野、視覚連合野等からなる。視覚情報を受け取り、形態、色、空間認知などの処理を行う。

注: 図は省略した。「正中矢状断した脳の断面図」などは生理系のテキストやあるいはネットで検索してもすぐわかるだろう。大脳の機能と構造の基本を知っていれば問題自体はむしろ容易かもしれない。本解答例では、想定される解答用紙のスペースとの兼ね合いで簡潔に書いたが、どこまで詳しく(あるいは簡潔に)書くかについては受験者も悩むところかもしれない。

2 心理学基礎論に関する次の語句(1)~(3)について、それぞれ説明せよ。

(1) カクテルパーティ現象

解答例:

パーティ会場のように周囲がざわついた場面でも、特定の情報を選択的に聴き取ることができる現象。チェリーの両耳分離聴と追唱を用いた選択的注意の実験により提唱された。このとき、注意

を向けられなかった情報は全く処理されないわけではなく、音声の物理的特性など浅いレベルの処理はなされていることが明らかになった。

(2) ICD(国際疾病分類)

解答例:

WHO による疾病分類である。10 年ごとに改訂され、現在は ICD-10 である。うち、精神疾患(障害)に関わるのは第 5 章の「精神および行動の障害」である。この中で、器質性精神障害、統合失調症、気分障害、パーソナリティ障害、知的発達障害、発達障害などが分類され、診断基準が示されている。精神障害の分類についてはアメリカ精神医学会による DSM がよく知られているが、世界的には ICD の方が多くの国で用いられている。日本でも厚生労働省の医療統計は ICD を用いている。

引用文献：有斐閣心理学辞典、丹野他 臨床心理学 有斐閣

(3) レジリエンス

解答例:

弾力性、回復力などと訳されることもある。逆境やストレスフルな状況においても不適応な状態に陥らず、心理社会的に良好な状態を維持できる能力や特性を意味する。類似の概念にハーディネスがあるが、ストレスに対する頑健なパーソナリティであるハーディネスとは区別され、レジリエンスは、ストレスの影響を受けてもコーピング方略等によりそこから回復する力を持つという意味も含む。

引用文献：誠信心理学辞典新版、大平英樹 感情心理学入門 有斐閣

3 児童虐待に関する次の問い(1)～(3)に答えよ。

(1) 児童虐待の防止等に関する法律(児童虐待防止法)に示された 4 つの虐待について、それぞれ説明せよ。

解答例:

児童虐待とは、保護者がその監護する児童に対して行う行為で、次の 4 つに分類される。①身体的虐待：身体に外傷を生じさせる又はその恐れのある暴行、②性的虐待：児童にわいせつな行為をしたりさせること、③ネグレクト：発達を妨げるような減食や放置、その他保護者としての監護を著しく怠ること、④心理的虐待：児童に対する著しい暴言や拒絶的対応、配偶者への暴力等の心理的外傷を与える言動等である。

(2) 虐待が児童に与える精神的影響について説明せよ。

解答例:

虐待が児童に与える影響は、身体的・知的側面から心理・行動的側面まで多岐にわたる。それらのうち精神的影響としては、第一に、不適切な養育環境に起因する知的発達に遅れが生じるおそれがあること、第二に、アタッチメント障害や解離、PTSD を認めることがあること、第三に、自尊心

情が低くなることで対人関係に困難が生じやすくなること、。第四に、感情のコントロールが難しく、衝動性が高いなど、情緒的行動的な問題を抱えやすい、などである。

(3) 虐待を受けた児童のアセスメントについて説明し、治療の名称を挙げよ。

解答例:

児童虐待防止対策に関連して、厚生労働省の主導によりアセスメントツールが開発されており、いくつかの自治体の児童相談所で用いられている。このツールによるアセスメントでは、虐待の恐れがある、あるいは虐待のあったケースに対して、子どもと養育者の様子を観察し、身体的状況、養育状況、性的な被害の状況、心理的な状況のリスクレベルを具体的に判定するものである。

これとは別に、実際に虐待を受けたことが確定している児童に対するアセスメントというものもあるだろう。これについては、アタッチメント障害、解離性障害、PTSD といった、虐待と関連する心理的障害についての個別のアセスメント法を適用することが望ましいと考えられる。また、虐待を受けた児童の治療については、現在それに特化した特定の治療法が確立しているとはいえない。名称のついた「治療」として試みられているものとしては、PTSD などトラウマに対する治療法が挙げられる。例えば、遊戯療法や箱庭療法などの力動的な心理療法の他、持続エクスポージャー法や EMDR などが挙げられる。

注：(3)の出題意図が、正直よくわからなかった。「虐待をうけた児童のアセスメント」とは、児相などで用いられているアセスメント・ツールを指すのか、特定の心理アセスメントがあって、それを書くべきなのか。また「治療の名称」とあるからには「虐待を受けた児童のための治療」に名称がついているのかもしれないが、一般的には被虐待児の症状に特化した、特定の効果的な治療はまだないはずである。というわけで、ここでは「わたしがかんがえた(3)の答え」を書いた。ゆえに、出題者の想定する妥当な解答とは異なる記述になっている可能性もある。

引用文献：厚生労働省 子ども虐待対応の手引き <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv12/00.html>

西澤哲 2004 「子ども虐待がそだちにもたらすもの」そだちの科学, 2, 10-16.

丹野他 臨床心理学 有斐閣

4 人格検査を測定法の違いにより分類したうえで、それぞれについて代表的な検査を挙げながら説明せよ。

解答例:

パーソナリティ検査は、測定法の違いによって、主として①質問紙法、②投影法、③作業検査法の3つに分けられる。

①質問紙法とは、用意された多数の質問項目について、被検査者が自己評定を行う方法である。通常は予め準備された選択肢(「はい・いいえ・どちらでもない」など)から適当なものを選んで回答する形式である。

代表的な検査としては、Y-G 性格検査が挙げられる。性格特性を示す 12 の尺度について各 10 問、合計 120 問の項目に対し、3 件法(はい・いいえ・?)で答える。結果はプロフィールで表されると同時にその標準点から 5 つの性格類型が判定される。

質問紙法の長所は、客観性が高く、検査者の主観や習熟度の影響を排除できること、集団で実施し、大量のデータを一度に処理できることなどが挙げられる。短所としては、回答の自由度が低

い分、個々の被検査者の条件に柔軟に対応できないこと、被検査者の自己報告に依存するため回答が歪曲される可能性があること等が挙げられる。回答の歪曲については、これを封じるための方法として、妥当性尺度が考案されている。先に例として挙げた Y-G 検査には含まれていないが、MMPI など一部の質問紙法では、質問項目に妥当性尺度を取り入れ、被検査者の回答態度についても分析可能である。

② 投影法とは、比較的自由度の高い、正誤や優劣の評価があいまいな課題の遂行を求め、得られた結果から、パーソナリティや情緒的傾向などの心理特性を把握する検査である。

代表的な検査としては、TAT が挙げられる。TAT とはマレーにより開発された検査である。ある状況の中に人物が描かれた、多義的であいまいな絵を被検査者に提示し、自由に物語を作ってもらおうという方法で行う。得られた物語を、力動的な欲求-圧力の結合した主題であるとみなして分析し、被検査者の欲求の体系や心理的特性を明らかにする。

投影法の長所は、検査の意図がわかりにくいこと、被検査者が防衛的にならずに反応でき、意図的な歪曲も起こりにくいこと、検査の実施自体が治療的意味を持つ検査もあること、である。短所としては、理論的な根拠があいまいな検査もあること、結果の処理や解釈が客観的でなく、検査者の技量に依存するものもあることである。

③ 作業検査法とは、特定の課題作業を被検査者に課し、その結果から個人の心理的特性を明らかにするものである。

代表的な検査としては、内田・クレペリン検査が挙げられる。この検査は、一桁の数字の加算を連続でできるだけ早く行うことを求める。結果は、一分単位の作業量をプロットしてグラフ化し、作業曲線とする。この作業曲線の形状の特徴や誤答数から、被検査者の作業態度、精神的健康度などの心理的特性を明らかにする。

作業検査法の長所は、実施が容易であり適用範囲が広いこと、被検査者の意図的な操作や歪曲が入りにくいこと、反応が客観的であることなどが挙げられる。短所としては、パーソナリティの限られた側面しか評価できないこと、被検査者に苦痛や負担感を与えること、課題に対する意欲の有無が結果に影響すること、などが挙げられる。

5 次の語句(1)～(3)について、それぞれ説明せよ。

(1) 防衛機制

精神分析学における概念で、不安や罪悪感などの否定的な感情体験を弱めたり避けることによって一時的に心理的安定を保つための心理作用である。S.フロイトにより、最初に防衛(後に「抑圧」と呼ばれた)という概念として提出され、後に A.フロイトによって防衛機制という名の下で、抑圧、退行、反動形成、置き換えなどの諸概念が整理された。

防衛機制は誰にでも認められる正常な心理作用であるが、特定のものが繰り返し常習的に用いられるような場合は何らかの不適応と関連することもある。

引用文献：有斐閣心理学辞典

(2) 認知スタイル

情報処理や判断の様式にみられる個人のタイプのことを指す。そもそも、知覚作用は普遍的なものではなく個人の持つ特性や動機、欲求によって異なるというニューロク心理学の考えから発展してきたものである。認知スタイルを捉える概念はさまざまあるが、次の二つがよく知られる。①熟慮型-衝動型:ケイガンらの MFFT テストにおいて、判断は遅いが誤りが少ないタイプ(熟慮型)と判断は速いが誤りが多いタイプ(衝動型), ②場依存型-場独立型:ウイトキンらにより提唱された認知スタイルで、課題遂行の際に視覚的な場に依存する人(場依存)と視覚的な場ではなく自らの進退を手がかりとする人(場独立), である。

引用文献: 有斐閣心理学辞典, 誠信心理学辞典新版

(3) ソーシャル・サポート

対人関係と人間の健康には密接な関係があるという実証的、経験的な知見から出てきた概念であり、一般的には「他者に与えられる援助」のことを指す。学術的には、その本質を損なわないために、あえて正確に定義をしないという立場もある。

ソーシャル・サポートはいくつかに分類されているが、大きく湧ければ次の二つである。①情緒的サポート: 傷ついた自尊心や感情に被たらきかけてその回復を図るサポート, ②道具的サポート: 具体的な援助の手段を提供したり、そのための情報を提供するサポート, である。

引用文献: 浦光博 支え合う人と人 ソーシャルサポートの社会心理学 サイエンス社